

第2章 山科地区の概況

山科地区は、山科駅を中心とした徒歩圏内（山科駅から概ね半径1kmの範囲）の地区です。この山科地区の概況として、山科地区の位置及び特性、山科区の人口及び高齢化率の推移、山科地区内の公共交通機関及び施設の立地状況を示します。

1 山科地区の位置及び特性

山科地区は、京都市東部に位置する山科区のほぼ中央部にあり、京都市の東の玄関口として古くから東海道や奈良街道など旧街道沿いに発展してきたまちで、地理的に交通の要衝となっています。

山科地区の核である山科駅の周辺には、高度な商業機能が集積し、東の玄関口としての地域拠点を形成しています。一方、地区内には、緑豊かな落ち着いた居住環境を有する住宅市街地も広がっています。

図 - 2 山科区の位置



図 - 3 山科地区の位置



2 山科区の人口及び高齢化率の推移

山科区は、都市近郊のベッドタウンとして市街地開発が進み、人口はかつて急増しましたが、現在は昭和55年とほぼ変わらず、横ばいとなっています。また、高齢者人口の総人口に占める割合である高齢化率は、平成12年で15.3%となっており、京都市域の17.2%、全国平均の17.3%より低いものの、昭和55年と比較すると約2.4倍にもなっており、急速に高齢化が進んでいます。

表 - 2 総人口、高齢者（65歳以上）人口及び高齢化率の推移

	山 科 区			京都市	全国平均
	総人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)	高齢化率(%)	高齢化率(%)
昭和55年	136,318	8,906	6.5	10.4	9.1
昭和60年	136,954	10,874	7.9	11.4	10.3
平成2年	136,070	13,332	9.8	12.7	12.0
平成7年	137,104	16,312	11.9	14.6	14.5
平成12年	137,624	21,101	15.3	17.2	17.3

(国勢調査)

3 山科地区内の公共交通機関

(1) 鉄道

山科地区内には、JR 琵琶湖線、京阪京津線、及び地下鉄東西線の3つの鉄道が走っています。鉄道駅は、JR山科駅、京阪山科駅、地下鉄山科駅の3駅があり、これらはいずれも1日平均利用者数が5,000人以上の特定旅客施設です。

表 - 3 山科地区内の鉄道及び駅

鉄 道	駅 名	1日平均乗降客数 (人)	1日平均利用者数 (人) 注)
JR 琵琶湖線	山 科 駅	59,000	59,000
京阪京津線	京阪山科駅	5,058	5,058
地下鉄東西線	山 科 駅	36,769	36,769

注) 改札内での乗換客数を加算した人数(3駅共、乗降客数に同じ。)

(2) バス

山科地区内では、京阪バスが、山科駅前広場から、三条京阪、京阪六地蔵、西大津、浜大津などの各方面に計16系統のバスを運行しています。

表 - 4 京阪バスの方面別1日の出発台数(平日)

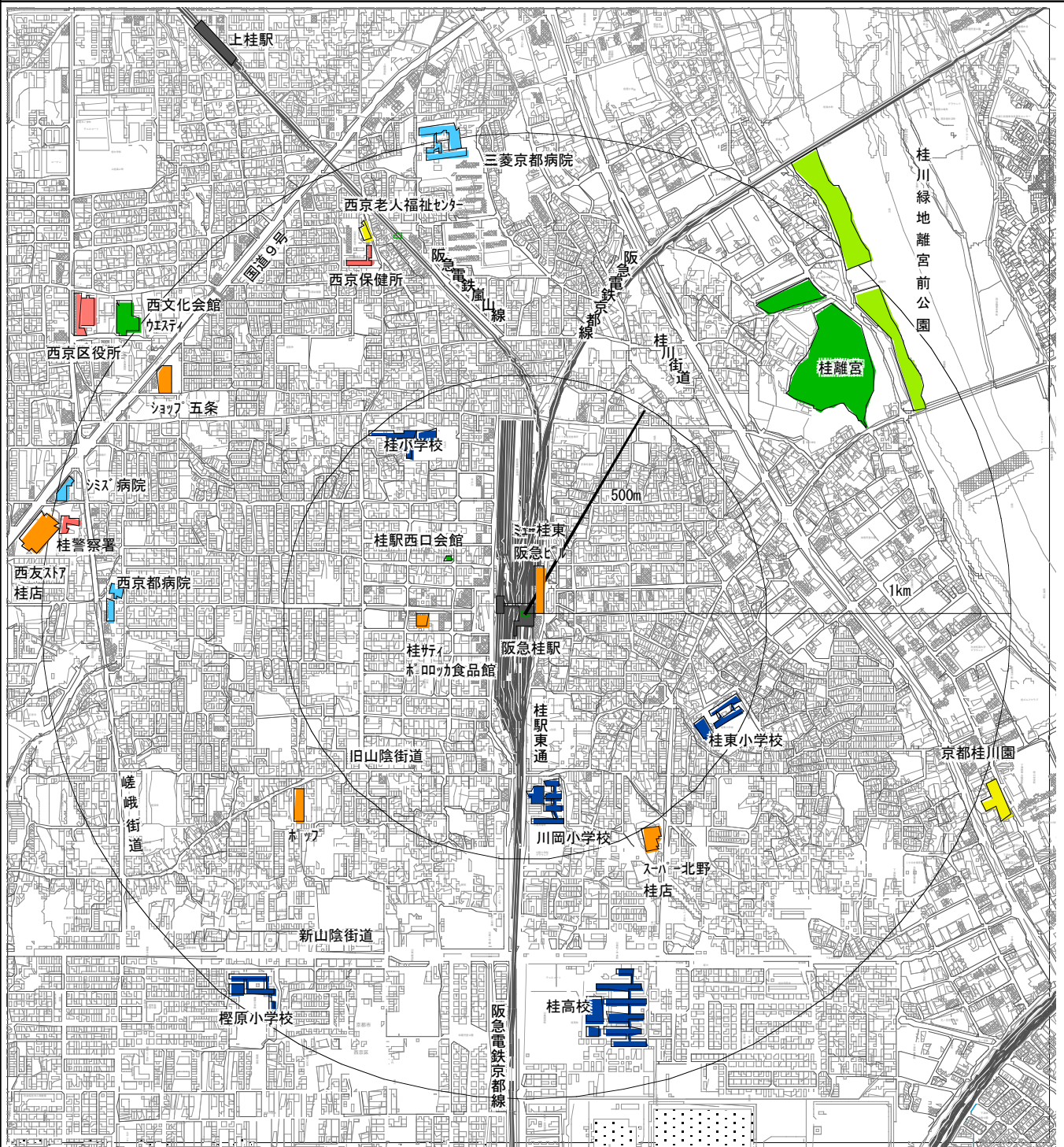
方 面	1日の出発台数(台)
三条京阪	16
京阪六地蔵	63
西大津	8
浜大津	3
大宅	61
京都橘女子大学	14
石田	10
藤尾・小金塚	26
小山	13
合 計	214

4 山科地区内の施設の立地状況









山科地区内には、市街地再開発事業により建設されたラクト山科をはじめ、山科総合福祉会館、山科合同福祉センターなどの福祉施設や愛生会山科病院、桑原病院などの医療施設、そして京都薬科大学、洛東高校などの教育施設など様々な施設が立地しています。

山科地区内の施設の立地状況を図 - 4 に示します。

図-4 桂地区内の施設の立地状況



凡例 (主要施設)

-  旅客施設 (鉄道)
-  官公庁施設
-  福祉施設
-  医療施設
-  教育施設
-  文化・レクリエーション施設等
-  都市公園・緑地
-  商業施設

